

あきたの 地域医療通信

2008年6月 創刊号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課
医師確保対策推進チーム

秋田県では、県内の自治体病院等で診療に従事していただける医師を県職員として採用しております。平成20年度秋田県地域医療従事医師第1号となった、大館市立扇田病院中西真一先生にお話をお聞きしましたので、紹介します。

Q 医師になった動機は？

A 母親の入院をきっかけに、医師という職業に感銘を受け、地域医療に興味を持ちました。また若いうちから責任を持った仕事を任されることも、職業選択の上で重要な要素でした。

Q 専門は泌尿器科とのことですが？

A 例えば内科であれば、手術が必要なら外科に任せることになり、部分的な関わりになってしまいます。泌尿器科を専攻したのは、診断、検査、手術まで、一人の患者さんに最後まで関わるのが可能な診療科であるためです。

Q 秋田県の県職員医師になった理由は？

A 40歳くらいをめぐりに地域医療に携わりたいと考えていました。大病院で勤務して、たくさんの症例や先進的な医療を学べるなど、良い面もたくさんありましたが、患者さんと身近な診療ができることなどを考えると、妻の故郷の秋田で働きたいという思いが強くなりました。また子供の成長のためにも、できれば同じ地域で子育てしたいことも理由の一つで、人生設計より少し予定が早まりましたが、いい機会だと思い秋田県職員医師になることを決めました。

Q 扇田病院での勤務内容は？

A 上の先生達から教わりながら、内科医として勤務しています。専門のみでなく、様々な患者さんを診ら

れるのでとても勉強になります。看護師の医師への協力も厚く、非常に働きやすいです。患者さんの大半は高齢で、80歳を超えても元気な方が多く、何をおいても農作業が優先されることに驚きました。検査が必要で日程調整をしようとしたら「田植えが終わってから」と言われることもありました。

(次ページへ続く)



中西真一先生プロフィール

神戸市出身。高知大卒。東京虎ノ門病院、京大病院等で泌尿器科の専門医として勤務。今年4月から大館市立扇田病院で勤務。妻、長男、長女、次男の5人家族。

Q 秋田の地域医療に関する印象は？

A 最先端の医療も学んできましたが、都会と地域に差はないと感じています。大きな病院では治療してもらえればそれでいい、と患者さんも考えているように感じることがありますが、秋田では、病気を治療するだけでなく、患者さんと人としての付き合いを実感しながら診療できるところが魅力であると思います。また在宅介護をしている人も多く、家族の中で介護が特別なことではなく、とても丁寧に行われていることに感心しました。

Q 秋田での生活、休日の過ごし方は？

A 公舎に住んでいて、庭もあるので家庭菜園を始めました。時々看護師の方も手伝ってくれて、種類も豊富になりました。シシトウ、トマト、ナス、バジル等がたくさん収穫できることを楽しみにしています。

週末は湯沢に住む家族の元に行って、子供達と過ごすのが何よりの楽しみです。5月に次男が誕生し、4歳の長男、2歳の長女と三人の子供がいます。子供達とよく公園に出かけますが、広くて整備された公園が県内各地にあり、秋田は公園が充実していると感じます。また甘い物が好きなので、各地の洋菓子店を巡って食べ歩きをしています。大館からは弘前も近いので、そちらに足を伸ばすことも多いです。

Q 秋田県職員医師になる人へのメッセージ

A 秋田は人との繋がりを持った医療ができることや、医師として働きやすい環境が整っていて、専門外の診療科を診ることでレベルアップも図れる等のメリットがあります。そういう点を地域医療に関心のある医師達に知ってもらい、たくさんの医師が秋田に来てくれることを期待しています。



秋田県職員医師募集のお知らせ

秋田県内の自治体病院等で診療に従事していただける医師を県職員として採用します。採用人数は5人です。

勤務期間は、4年間で1単位

◇3年間は県内の自治体病院等に勤務

◇残り1年間は希望する国内外の医療・研究施設において、有給の研修・研究期間とすることが可能



ご連絡いただければ、直ちに、申込書類一式を送付いたします。



<http://www.pref.akita.lg.jp> (美の国あきたネット→便利ツール→県職員医師募集)



大館市立総合病院

〒017-8550 大館市豊町3番1号
tel.0186-42-5370

秋田県北部、JR大館駅より車で10分に位置し、地域の基幹中核病院として、二次医療を中心に幅広く地域の要望に応じている総合病院です。

病床数は493床(一般375床、精神110床、結核6床、感染症2床)を有し、感染症、救急、災害拠点、エイズ、臨床研修、周産期母子医療、地域療育医療などの拠点病院として、政策医療にも深く関わっています。

「患者さんが安心と満足を得られる医療の展開」を基本理念に、より高度で良質の医療と患者サービスを目指して、常に設備の充実と組織の改革を進めています。臨床研修に関しては、平成17年に単独型臨床研修病院の指定を受け、現在、病院のリニューアル事業が進行中(H21年3月完成予定)で、豊富な症例とともに最適な研修環境を提供しております。



第3回 医師臨床研修指導医ワークショップ

平成20年5月9日(金)～11(日)に、ホテルサンルーラル大潟を会場に、医師臨床研修指導医ワークショップを開催しました。

全県から39人の指導医の先生方に参加いただき、皆さんに厚生労働省医政局長と秋田県臨床研修協議会長連名の修了証書をお渡ししました。



2泊3日ということで、かなりハードなスケジュールでしたが、受講された先生方には、積極的にグループワーク等に参加いただき、内容の濃い、活気ある講習会となりました。

東北厚生局の大澤医事課長、慶應義塾大学の杉本先生、福井大学病院の寺澤先生、(社)地域医療振興協会の名郷先生、福島

県立医大の葛西先生に外部講師としておいただきました。

夜の懇親会も、昼に劣らず、活気のあるものとなりました。各病院さんから地酒を提供いただき、参加者みんなで秋田の味に舌鼓を打ちました。

指導医の先生方の親交も、病院間の垣根を越えて、大分深まったようでした。

平成18年度から年1回ずつ開催しており、今回が通算3回目となりました。来年度から、指導医講習会の受講が義務化されることもあり、今年度、秋にもう1回開催を予定しています。



指導医メッセージ

秋田組合総合病院
副院長 齊藤 崇 先生
(卒後研修管理委員長)



臨床研修義務化元年となった平成16年、当院への応募者はなんと「0」、まさしくゼロからのスタートでした。しかしその後関係各位の必死の努力が実り翌17年は定員の3倍を超える応募がありマッチング100%を達成しました。

指導医が情熱をもって接すれば研修医はやってくる、先輩達が生き生きと頑張る姿をみせてくれればさらにその後輩達がやってくる、要するに「人が人を呼ぶのだ」ということだと思います。18年度から定員を4人から10人へと一挙拡大という強気の勝負に出ましたが、再び100%を達成して、我々自身が驚くほど瞬間に県内最大の研修病院となりました。20年5月現在、初期研修22名（大学病院からの委託も含む）、3～5年目の後期研修医7名の大所帯となっています。病棟や救急センターには常に若いドクター達が詰め、患者さんのもとに足繁く通うこともあって各病棟の「医療過疎」も大幅に改善され、院内の雰囲気明るくなった様子はほんの数年前までに比しまさしく隔世の感があります。

「研修病院 teachinghospital」への脱皮は「病院の空気」を変えるだけでなく、各種マニュアル、ガイドライン作成などの指導内容点検、医療安全体制の見直し等を介して病院医療の質を変え、職種間連携・チーム医療態勢整備にもつながります。また、研修を通して従来十分とは言えなかった県内研修病院間連携の機運も大いに高まってきており、昨年からは合同研修医カンファレンス（JOINT CASE CONFERENCE for Young Doctors In Akita：秋田市5病院）、県内全研修医によるワークショップであるレジデントスキルアップキャンプ（秋田県臨床研修協議会主催）などの企画もスタートしました。巷では、研修制度が「地域医療崩壊」の引き金となったとの言説が喧伝されていますが、研修義務化のはるか以前から地方の医師不足はあったし、私は本来全く別の次元の話であると思っています。制度の瑕疵は多々あるにしてももう決して後戻りはできないし、この状況をネガティブに捉えるのではなく、むしろ「地域医療」を救う道は県内における研修の充実強化によって地元で頑張る若手医師を育てる以外にはないのだと思っています。研修を武器にして病院間、あるいは大学と病院の枠を超え、関係者一丸となって地域医療再生に取り組むべきと思っています。



レジナビフェア2008 in 東京

医学生のための臨床研修指定病院合同セミナー（主催：メディカル・プリンシプル社）が東京ビッグサイトで開催されます。今年も「秋田県病院群（臨床研修協議会）」として参加し、たくさんの研修医が秋田の臨床研修病院へ来てくれるよう各病院のPRをします。

平成20年7月13日（日） 10:00～17:00

東京ビッグサイト 東4・5ホール（東京都江東区有明）



この度、秋田県の地域医療に関する情報紙を創刊することになりました。関係のみなさまに医師確保対策事業や臨床研修支援の取組等の情報を発信していきたいと考えております。

… お問い合わせ先 …

E-mail : ishikakuho@pref.akita.lg.jp Tel.018-860-1410
秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策推進チーム 〒010-8570秋田市山王4丁目1番1号